

Takakita

2026年3月期 中間決算説明資料

2025年12月5日

株式会社 **タカキタ**



東証 スタンダード
名証 プレミア
証券コード
6325



1

2026年3月期 中間決算の概要



2

通期の業績予想



3

市場背景と今後の成長戦略

参考資料（事業概要）

1

2026年3月期 中間決算の概要



【農業機械事業】

- ・米価高騰の影響
 - ▶水田市場で機械投資意欲が旺盛
- 土づくり関連作業機が堅調に推移



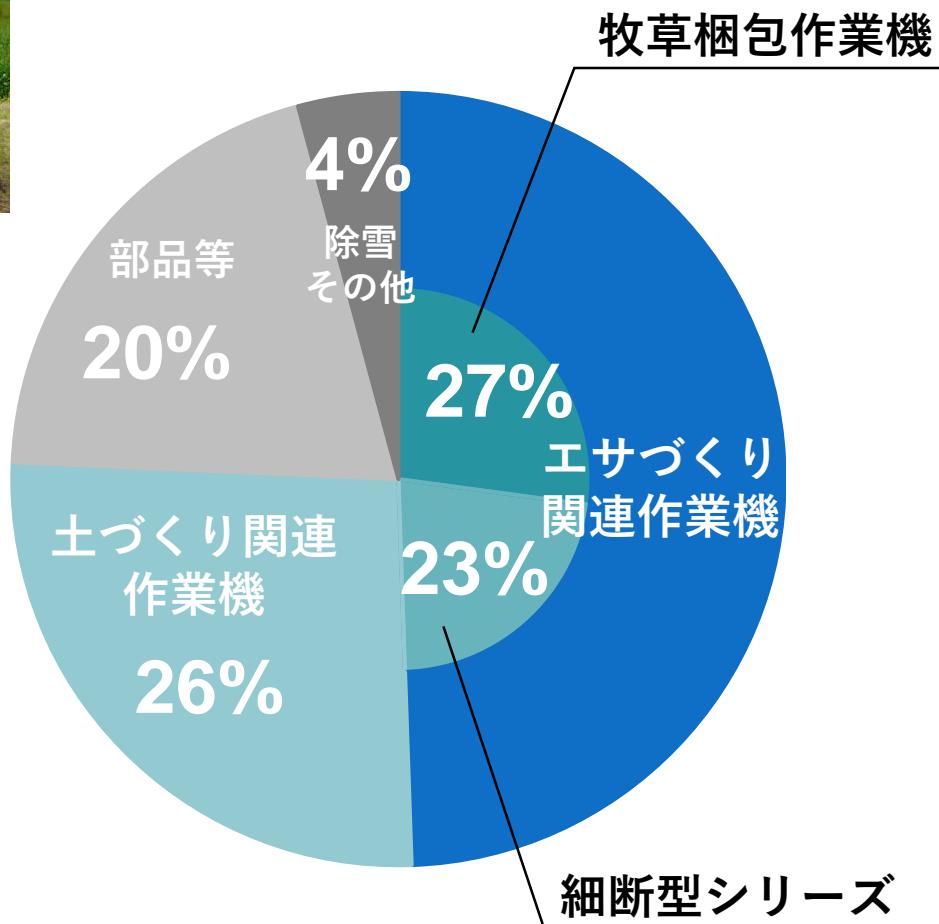
- ・市況の低迷が継続
- ・新製品の市場投入
 - ▶投資意欲の回復には至らず
- エサづくり関連作業機の受注減少



売上高 **27億31百万円**

前年同期比 **13.0%減収**

部門内 売上高 構成比



【農業機械事業】

- ・欧米市場は前年並みに推移

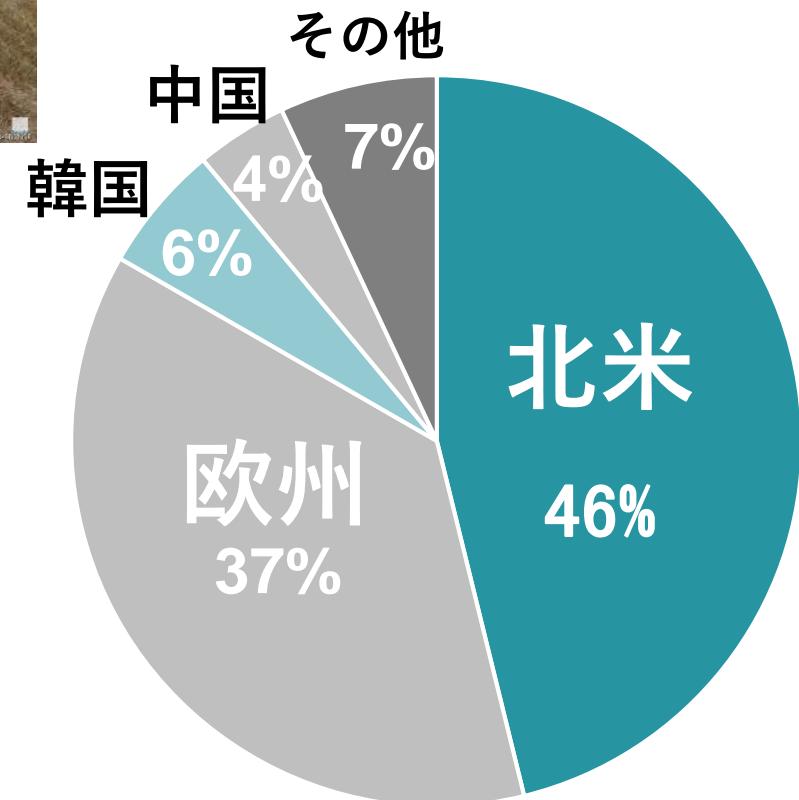
- ・韓国市場における前期値上げ前の駆け込み受注による反動
- ・需要そのものの停滞



売上高 **47** 百万円

前年同期比 **80.1%** 減収

部門内売上高 構成比



【軸受事業】

得意先からの受注
減少により減収



売上高 **1億96百万円**
前年同期比 **19.8%減収**



利益面

売上高・生産量の減少 ➤ 固定費の割合増加

売上原価率を押上

29億77
百万円

前期比
17.8%減

売上高

17
百万円

前期比
93.8%減

営業利益

40
百万円

前期比
86.9%減

経常利益

17
百万円

前期比
90.5%減

中間純利益

(単位：百万円)

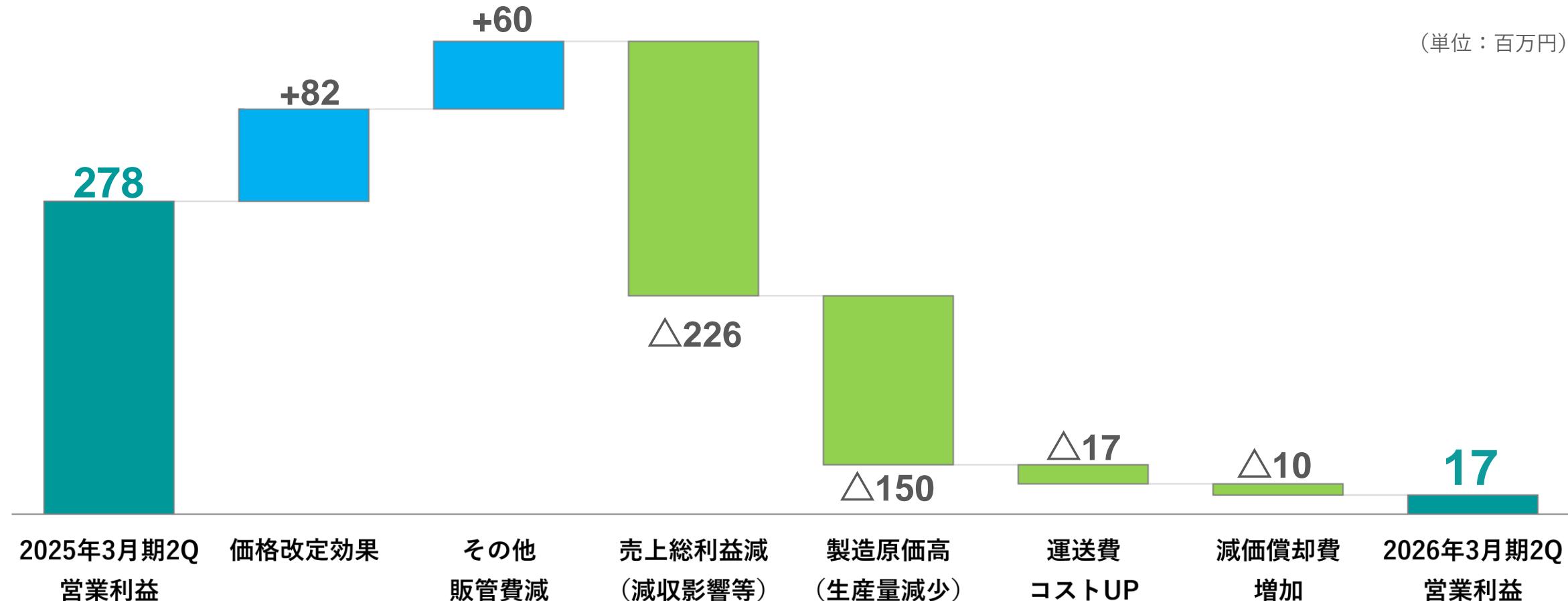
	2025/3月期 2Q実績		2026/3月期 2Q		実績		
	金額	売上高比率	当初予想		金額	売上高比率	予想比
			金額	売上高比率			
売 上 高	3,622	-	3,450	-	2,977	-	△13.7%
営 業 利 益	278	7.7%	137	4.0%	17	0.6%	△87.4%
経 常 利 益	310	8.6%	157	4.6%	40	1.4%	△74.1%
当 期 純 利 益	185	5.1%	101	2.9%	17	0.6%	△82.5%

■セグメント内訳(セグメント相殺前)

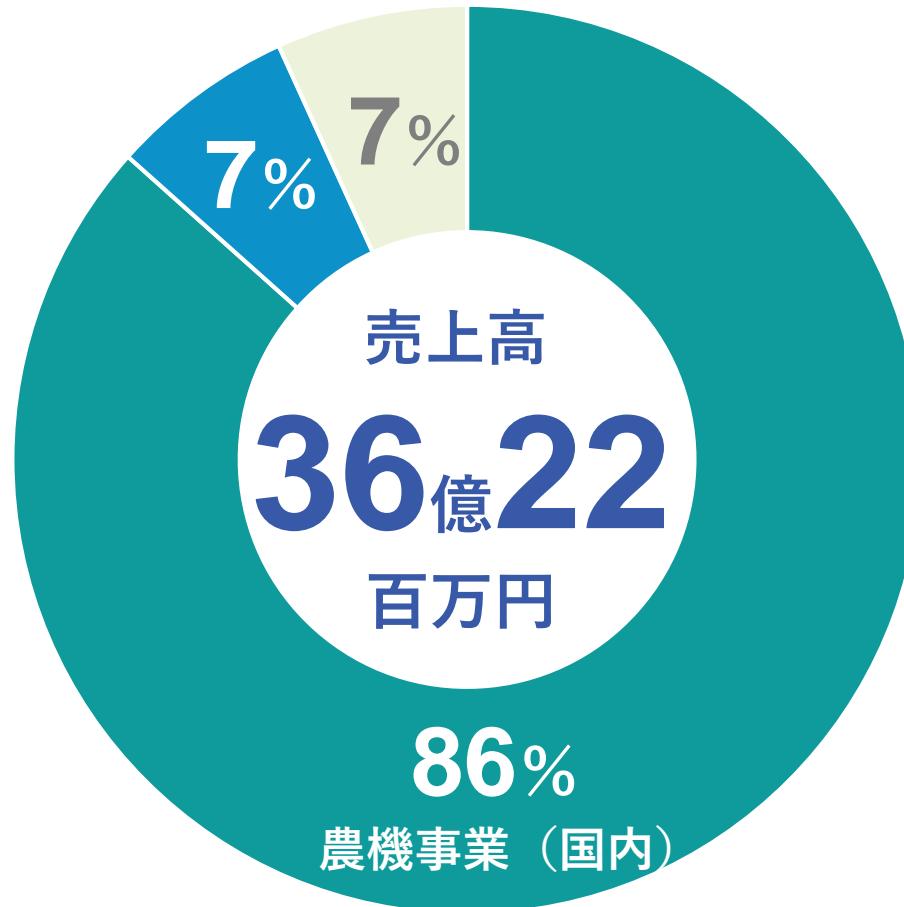
セグメント	科 目	2025/3月期 2Q	2026/3月期 2Q	前年比
農機	売 上 高	3,377	2,780	△17.7%
	営 業 利 益	249	18	△92.5%
軸受	売 上 高	245	196	△19.8%
	営 業 利 益	5	△16	-

- ・価格改定効果
- ・販管費削減

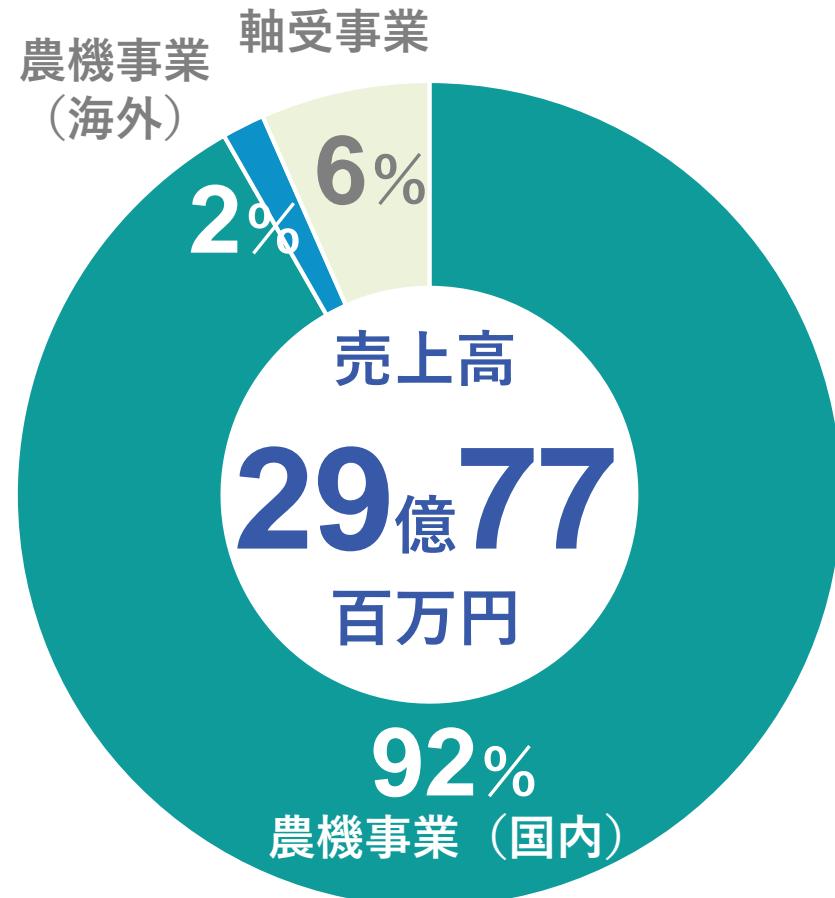
- ・減収影響 → 売上総利益減
- ・生産量減少 → 製造原価高
- ・調達部品価格の高騰



2025年3月期
中間

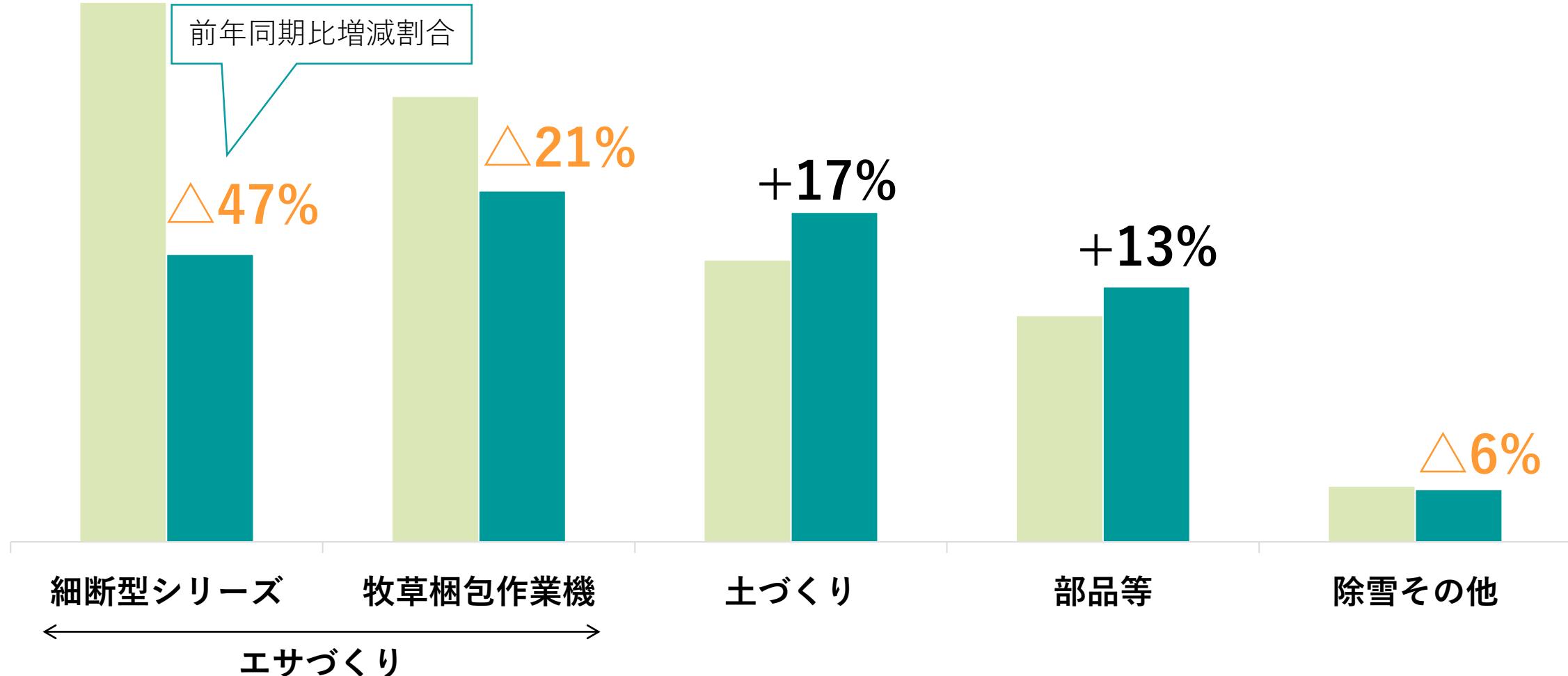


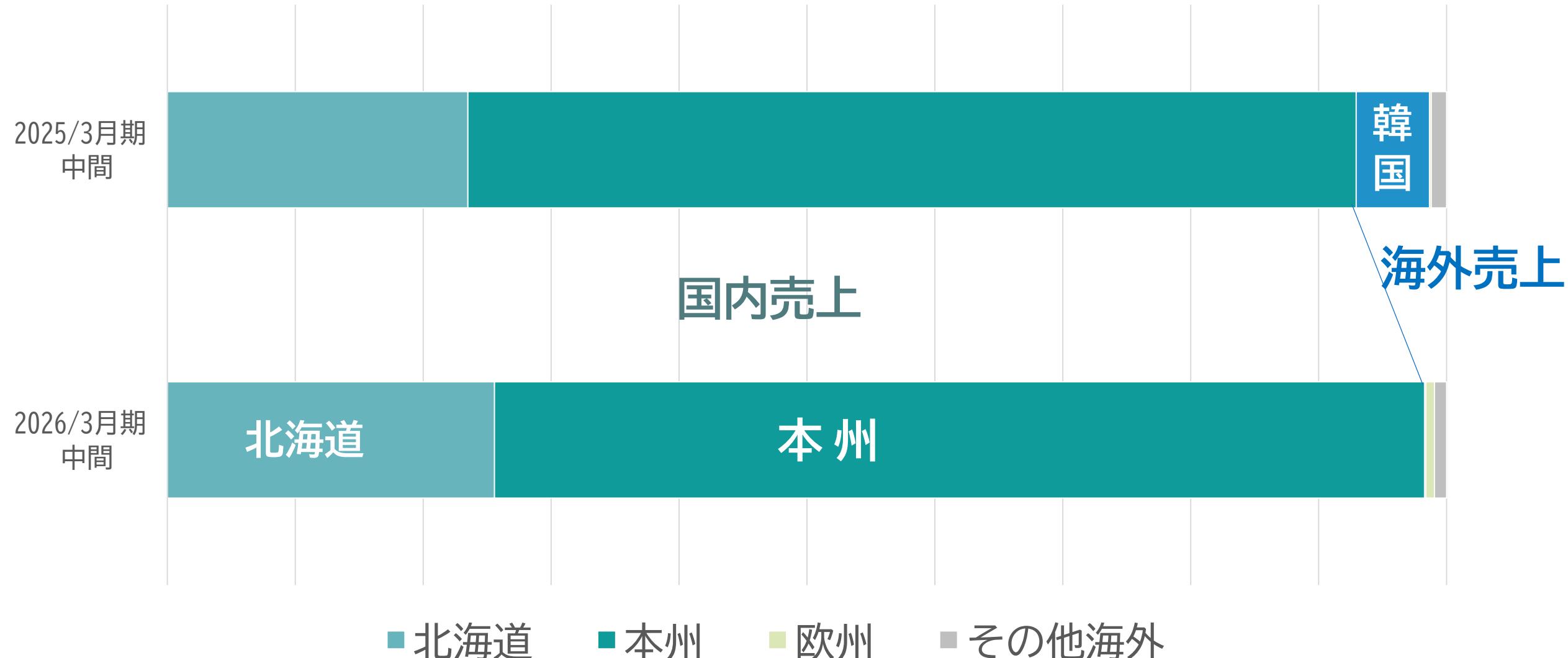
2026年3月期
中間



前年同期比
17.8%減収

■ 2025/3月期2Q
■ 2026/3月期2Q





(単位：百万円)	2025/3月期	2026/3月期中間	差異	
資産の部				
流動資産	6,193	5,838	△354	現金及び預金：393減 受取手形及び売掛金：133減 原材料及び貯蔵品： 91増 電子記録債権： 63増 仕掛品： 46増
固定資産	3,736	3,897	160	
(資産合計)	9,929	9,735	△194	投資有価証券：143増
負債の部				
流動負債	1,720	1,406	△313	設備電子記録債務：558減 支払手形及び買掛金：201増
固定負債	119	175	55	
(負債合計)	1,840	1,581	△258	繰延税金負債： 62増
(純資産合計)	8,089	8,153	64	利益剰余金： 38減 その他有価証券評価差額金： 98増
負債純資産合計	9,929	9,735	△194	

主要指標 の推移		2024/3	2025/3	2026/3 2Q
	自己資本比率	76.1%	80.7%	83.0%
ROE	9.4%	7.2%	-	

2

通期の業績予想



農業機械事業〔国内〕

- ・ 輸入飼料価格の高止まり
- ・ 国産飼料への切り替えニーズの高まり
- ・ 新たな「食料・農業・農村基本計画」
- ・ 畜産クラスター事業への申請分の採択
- ・ 人手不足対策に有効な複合作業機の拡販
- ・ カーボンニュートラルに貢献できる有機肥料散布機の増販
- ・ 除雪作業機の早期受注分の出荷
- ・ 水田、畑作、果樹市場に向けた新たなソリューション営業

農業機械事業〔海外〕

- ・ 韓国市場の厳しい市況
- ・ 欧州市場は受注堅調、北米市場も一定の受注見込み

軸受事業

産業界全体の動向に不透明感



受注の減少を見込む

増益要因

- ・製品の一部値上げ
- ・生産活動の付加価値向上・原価低減
- ・DX促進による業務改善

溶接工場
新設

減益要因

- ・人件費
- ・試験研究費
- ・減価償却費

経費増
見込**66**億円

前期比

5.8%減

売上高

2億10百万円

前期比

39.1%減

営業利益

2億52百万円

前期比

37.0%減

経常利益

1億68百万円

前期比

70.3%減

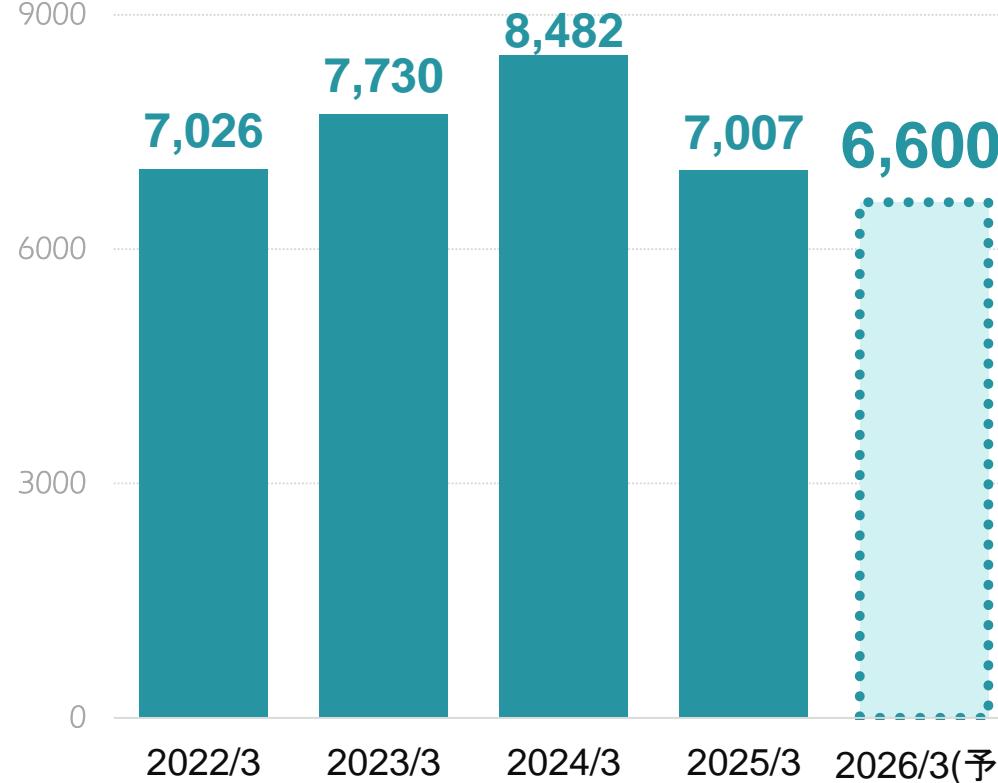
当期純利益

(単位：百万円)

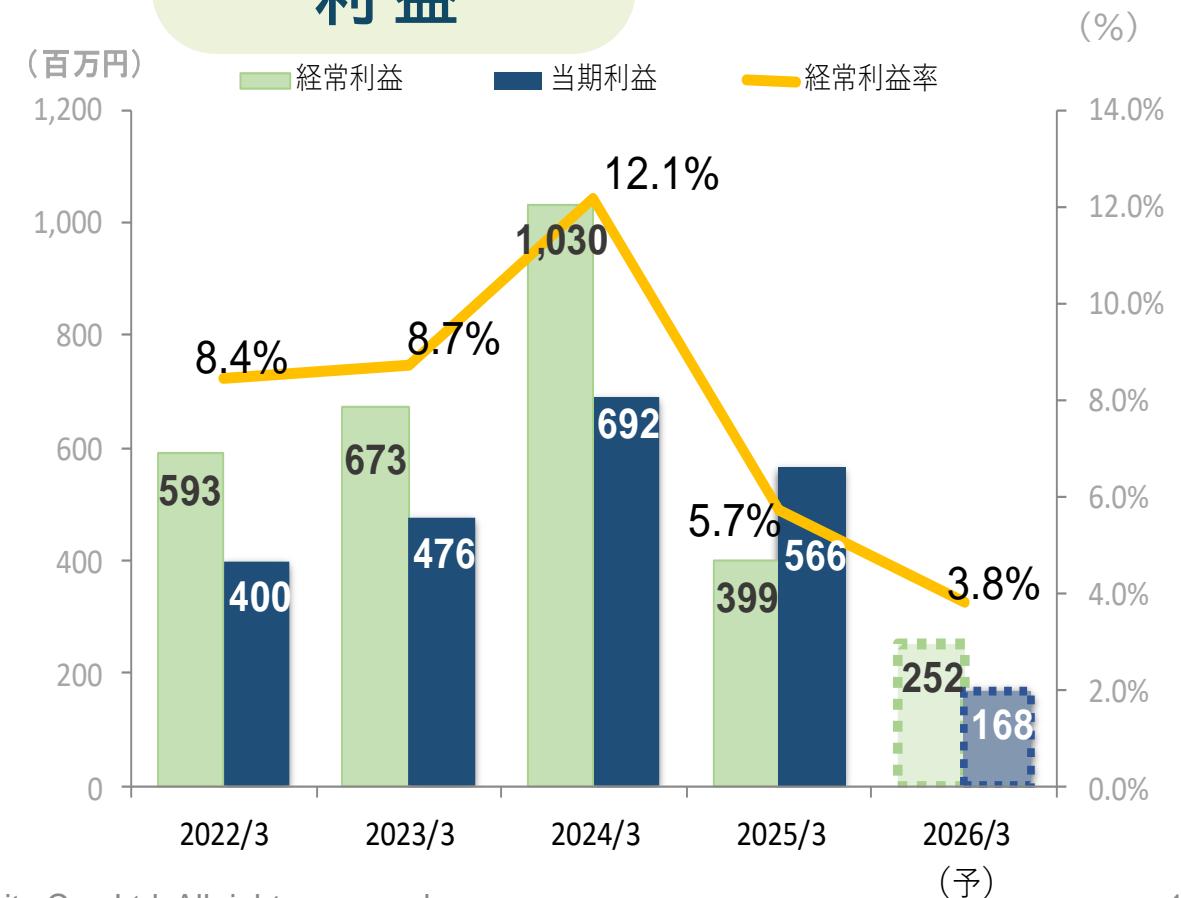
	2025/3月期実績		2026/3月期予想					
	金額	売上高比率	上期実績	下期予想	通期予想 (10月31日修正)	売上高比率	前年増減	前期比
売 上 高	7,007	-	2,977	3,622	6,600	-	△407	△5.8%
営 業 利 益	344	4.9%	17	192	210	3.2%	△134	△39.1%
経 常 利 益	399	5.7%	40	211	252	3.8%	△147	△37.0%
当 期 純 利 益	566	8.1%	17	150	168	2.5%	△398	△70.3%

- 2022/3月期は、エサづくり関連作業機の伸張や、集草作業機ツインレーキのシリーズ化および新製品投入効果により増収。
- 2023/3月期は、エサづくり関連作業機の伸長や、除雪作業機の早期受注活動により増収。
- 2024/3月期は、国内・韓国市場での細断型シリーズの受注が増加し増収。
- 2025/3月期は、海外市場での売上の減少や、エサづくり関連作業機・除雪作業機の売上が減少し減収。

売上高



利益



単位：百万円

	設備 投資額	売上高 比率	減価 償却費	研究 開発費	売上高 比率	売上高 比率
2024/3月期	113	1.3%	246	2.9%	118	1.4%
2025/3月期	711	10.1%	236	3.4%	120	1.7%
2026/3月期	335	4.7%	301	4.2%	128	1.7%

2024/3月期

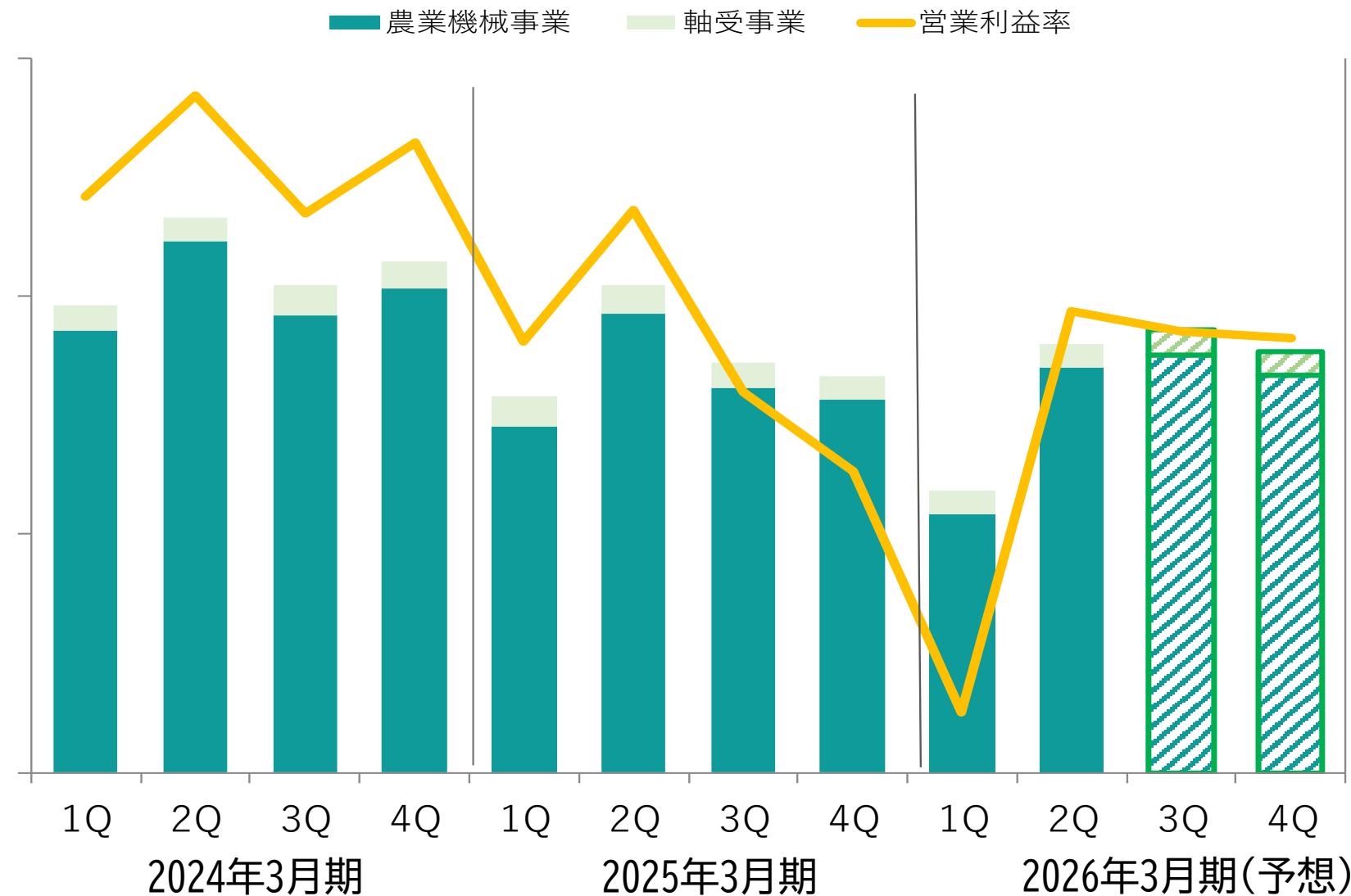
- ・従業員駐車場の移転工事
- ・農機工場における機械設備等の更新

2025/3月期

- ・本社敷地内に生産力増強に寄与する溶接工場の新設及びその関連設備(2025年1月竣工)
- ・間接業務DX化のためのシステム導入等

2026/3月期

- ・農機工場におけるファイバーレーザ加工機更新やCNC旋盤の導入
- ・スマート農業対応の試験用トラクタ導入



3

市場背景と今後の成長戦略

社会構造の変化

- ・高齢化
- ・重労働と労働人口不足
- ・大規模経営化

高まる機械化の需要

	農業用作業機の出荷実績(含む輸入)			(単位:百万円)
	国産出荷分	輸入分	合計	
2005年	37,930	4,516	42,446	
2010年	34,691	5,906	40,597	
2015年	39,041	7,542	46,583	
2020年	37,956	7,994	45,950	
2024年	41,210	8,581	49,791	

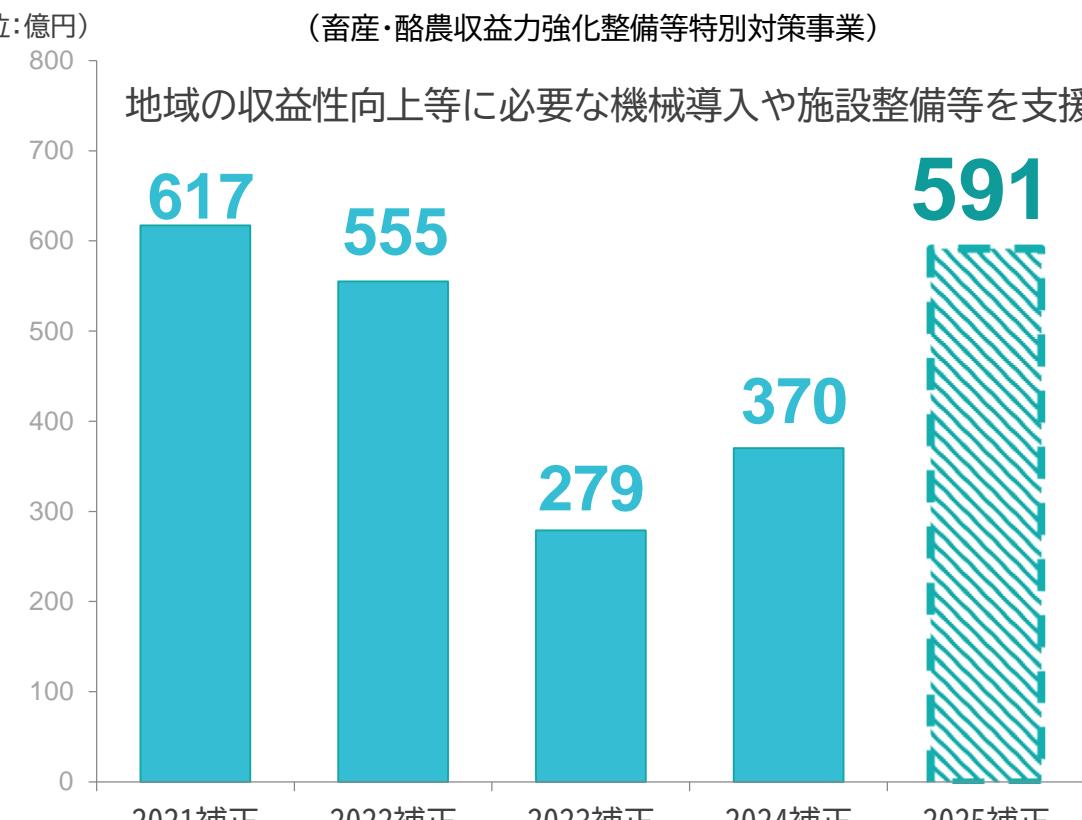
資料:日本農業機械工業会HP「統計資料」より当社作成

畜産・酪農生産基盤の強化に向けた政策支援

畜産クラスター事業

(畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業)

地域の収益性向上等に必要な機械導入や施設整備等を支援



※2015年度補正予算から基金化

資料:農水省HPより当社作成

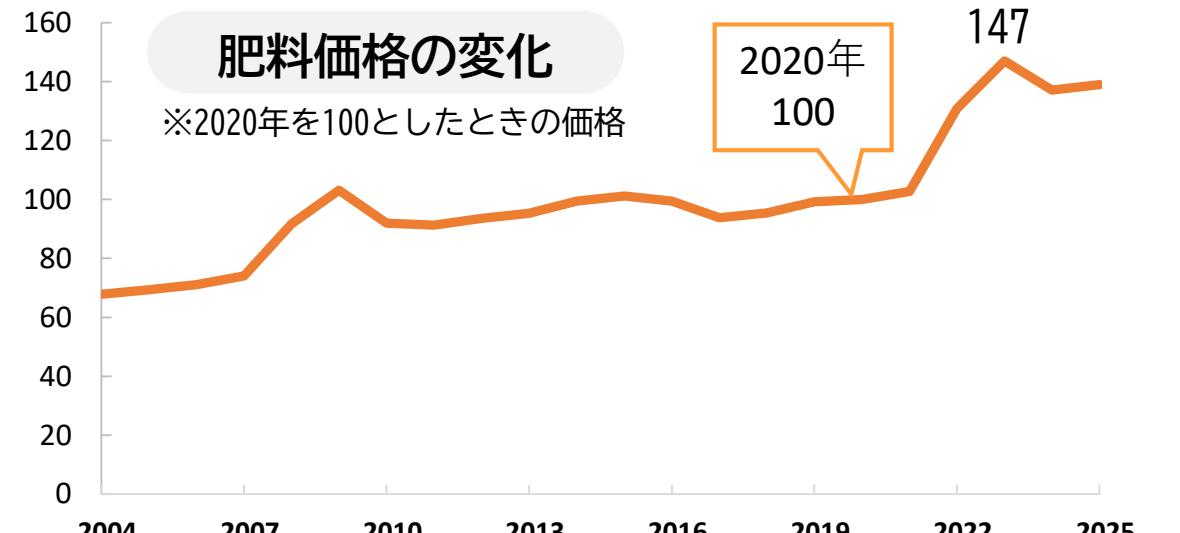
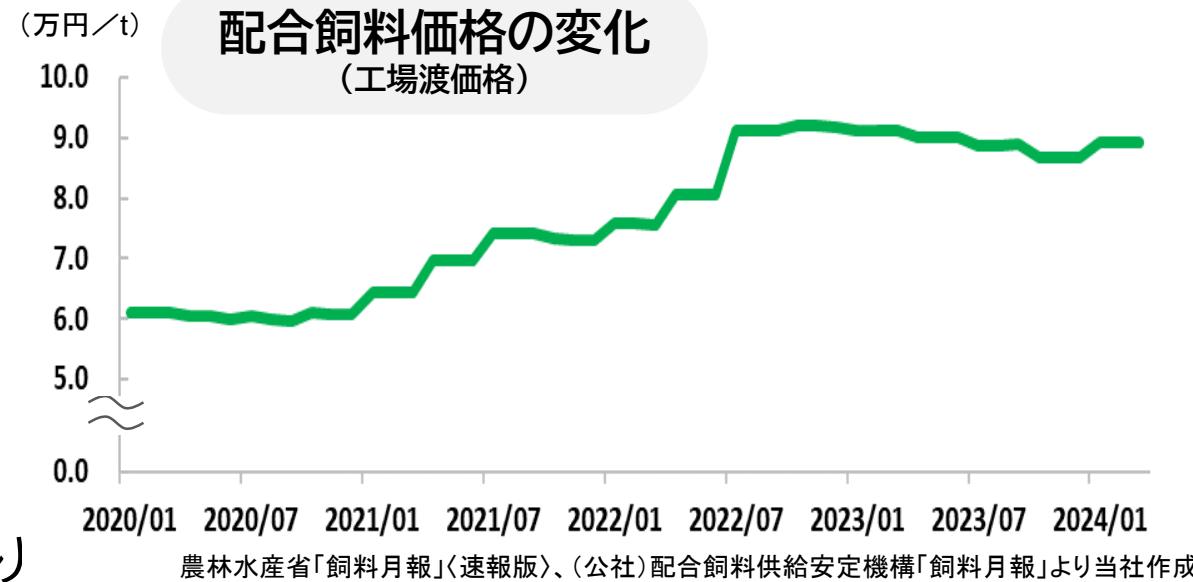
配合飼料や肥料価格の高騰

- ・国産飼料の増産
- ・国内資源の肥料利用の拡大
- ・耕畜連携、循環型農業の推進による強い農業づくり



※食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する政策

画像出典元:農林水産省HPより切り抜き





異常気象の頻発化
世界人口の増加

食料需要の増加

日本農業が抱える主な課題

- ✓ 食料自給率の低下
- ✓ 高齢化と担い手不足
- ✓ 気候変動の影響
- ✓ 耕作放棄地の増加
- ✓ 農業所得の減少
- ✓ 國際競争への対応
- ✓ 新規就農者の定着困難

改正基本法と新たな食料・農業・農村基本計画



食料
安全保障
の確保

農業の
持続的な
発展

改正基本法
5つの
基本理念

環境と調和の
とれた食料シス
テムの確立

農村の
振興

農業の
多面的機能
の発揮

食料安全保障の
強化

食料自給率の向上

持続可能な食料
システムの構築

環境負荷の低減
循環型農業の推進

農業の構造転換
と担い手確保

スマート農業

みどりの食料システム戦略

新たな食料・農業・農村基本計画



タカキタが貢献できること

スマート農業の推進

環境負荷の低減

食料自給率向上への貢献



肥料散布作業機
(Mixソーワ)



ライムケーキ散布作業機
(ライムケーキスプレッダ)



自走式飼料刈取り・梱包作業機
(汎用型微細断飼料収穫機)

Offensive120

期間:2023年4月 ~ 2033年3月までの10年間

中期事業計画 (2024年3月期~2026年3月期)

スローガン

『やり切る執念 次代へ挑戦 Offensive120』

基本戦略

国内の農機ビジネスをコア事業としながら海外市場への拡大・展開を図り、企業としての社会的存在価値をより創出し、継続的な社会貢献を目指す。

農業機械事業〔国内〕

- 農業の省力化・効率化に対応する製品開発
- 畑作・果樹・水田市場への深耕および新製品開発提案
- スマート農業の実現に向けた製品のICT化
- アフターマーケット戦略

農業機械事業〔海外〕

- 韓国や欧米市場の事業領域拡大と発展
- グローバルニッチ市場での新規市場開拓



(ブラジル)



(インド)



(台湾)



(パナマ)



(スロバキア)



果樹市場



ICT化



海外市場



(作業動画)



(作業動画)

※GNSSレベリングシステムが別途必要になります



MANURE SPREADER

(作業動画)



※動画内の機種は試作機になります。

(作業動画)

本日は、ご清聴ありがとうございました。

【お問い合わせ先】

株式会社タカキタ 管理本部経理部

E-mail:soumu@takakita-net.co.jp

TEL: 0595-63-3111

ホームページ: <https://www.takakita-net.co.jp/>

■本資料の注意点

- ・ 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。
- ・ 本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が予測したものです。実際の業績は、様々なリスク要因や不確実な要素により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。
- ・ 本資料中の情報によって生じた影響や損害については、当社は一切責任を負いません。
- ・ なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願いいたします。

事業概要



商号	株式会社タカキタ (Takakita Co., Ltd.)
本店所在地	三重県名張市夏見2828番地
代表者	代表取締役社長 藤澤 龍也
創業年月	1912年（明治45年）1月
設立年月	1945年（昭和20年）3月
資本金	13億5,000万円
発行済株式数	14,000千株
決算期	3月
事業内容	農業機械の製造販売及び軸受加工
従業員数	276名（パート、アルバイトを除く） ※2025年3月31日現在
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場 名古屋証券取引所プレミア市場



代表取締役社長
藤澤 龍也

会社スローガン
豊かな未来への道をつくる
恵み豊かな大地を守る

タカキタのあるべき姿 “Vision”
 《貢献》社会の課題を独自の価値観による製品提案で解決する
 《信頼》製品開発でグローバルニッチ市場のニーズに応える
 《CS》お客様の「期待」を超える製品・サービスを提供する

Slogan

豊かな未来への道をつくる
恵み豊かな大地を守る



Purpose (タカキタの存在意義)

未来をつくるイノベーションで、地球からの恵みをすべての人に届ける

Story (タカキタの歴史と信念)

私たちは「土に親しみ、土に生きる」をモットーに1912年の創業以来、農業の近代化に取組んできました。

人類を支えてきた源とも言える農業。天と大地の恵みを受けた農業。

私たちは今、地球環境の保全、人と自然の共存を求められています。

私たちは地球に優しいモノづくりを通して、新しい技術と信頼と感動をつくり続けます。

Vision (タカキタのあるべき姿)

《貢献》社会の課題を独自の価値観による製品提案で解決する

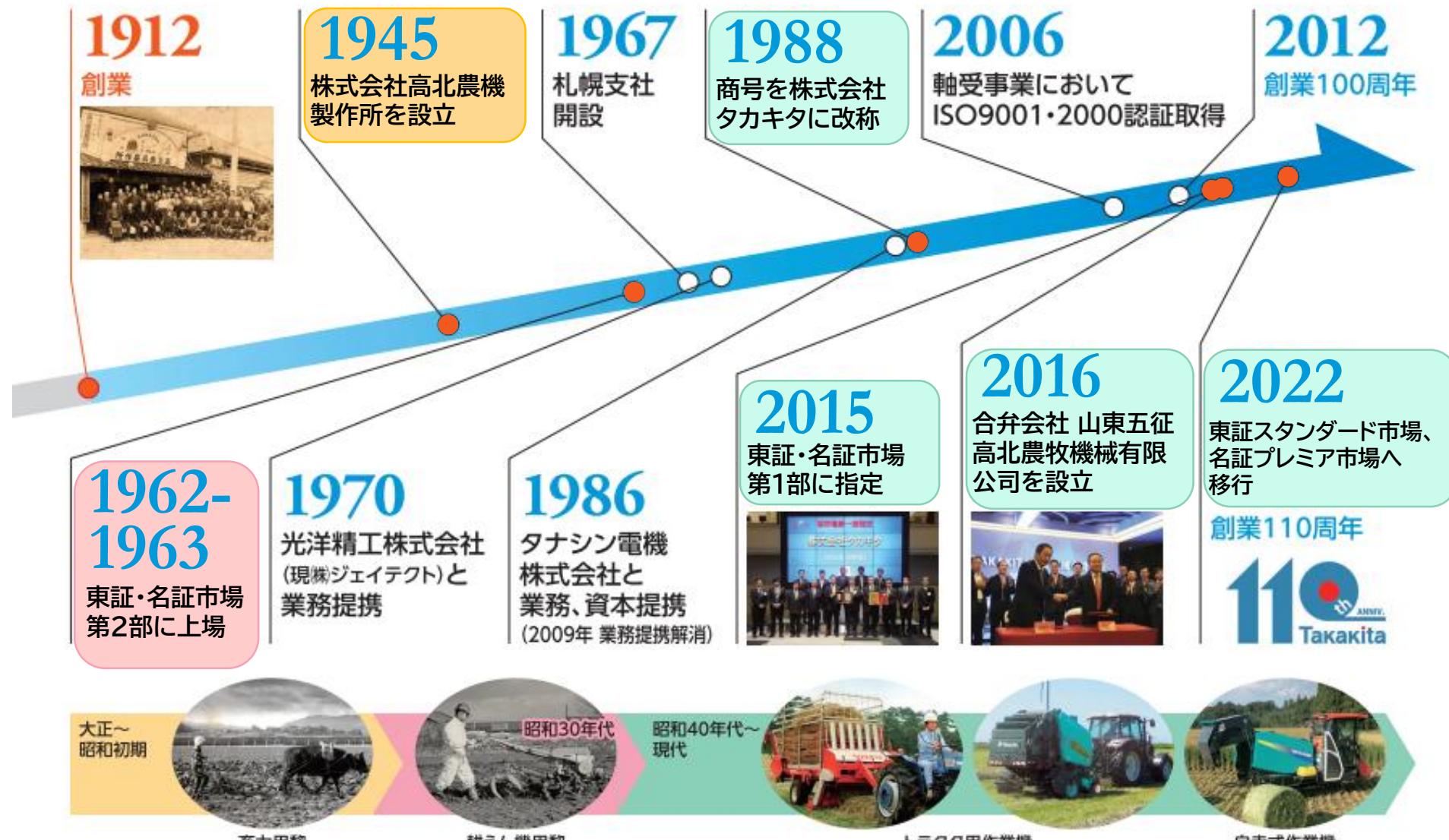
《信頼》製品開発でグローバルニッチ市場のニーズに応える

《CS》お客様の「期待」を超える製品・サービスを提供する

WAY (タカキタの価値観)

常に現状否定に徹し、新たな視点で挑戦しよう

常に一つ上の基準・視点に立って判断・行動しよう





全国に広がる
タカキタ のネットワーク

China Map

合併會社
山東五征高北農牧機械有限公司

中国営業所

九州営業所

南九州営業所

本社

関西営業所
海外営業本部

豊富営業所

札幌営業所

帯広営業所

東北営業所

南東北營業所

関東営業所

札幌工場



14,424m²

(エスコンフィールドグラウンド面積: 約12,000m²)

本社・工場

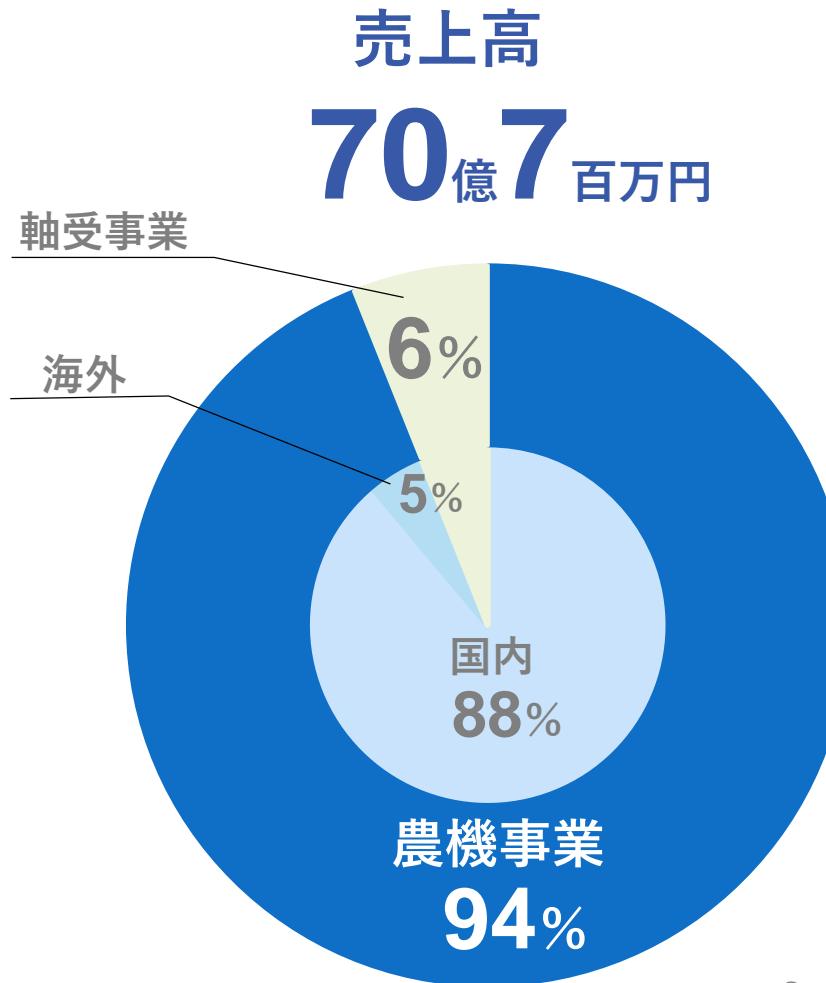


49.502m²

(名古屋ドーム面積:48,169m²)

農機事業が中心

2025年3月期



【農業機械事業】

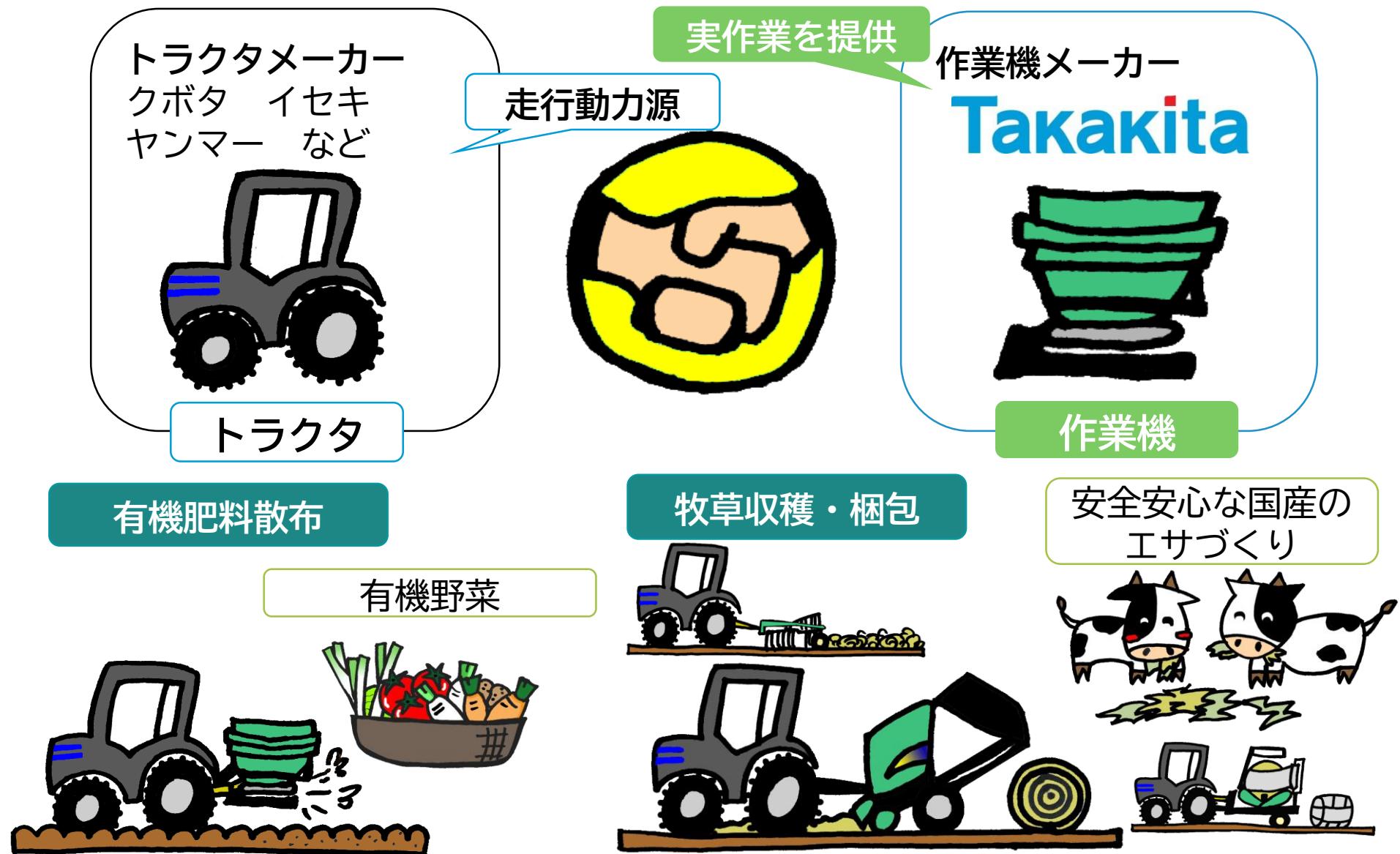
畜産酪農用飼料収穫機、土づくり作業等の農業機械の製造・販売



【軸受事業】

大型ベアリングの旋削加工及びコロの研磨





土づくり関連

肥料散布作業機



尿散布作業機



堆肥散布作業機



餌づくり関連

牧草・ワラ梱包作業機



牧草・ワラ反転・集草作業機



給餌・除雪・その他

給餌作業機



除雪作業機



水田用除草剤散布作業機



剪定枝処理作業機



弊社事業の特長・強み



農業機械事業

製品完成までの流れ

原材料入荷

材料切断

外形抜き
成形

曲げ加工

溶接

塗装

組立

出荷



ファイバーレーザー
加工

プレス

ブレーキプレス

溶接口ボット

塗装

組立

出荷・納品

材料切断から組立まで一貫生産

少量多品種のフレキシブルな生産が可能

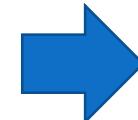
トウモロコシのサイレージ化は、人手と手間がかかる

サイレージ:作物を発酵させて作る家畜用飼料

7月～8月の炎天下酷暑の中…



刈取・収穫



運搬



荷降・踏圧



密封・貯蔵



スタックサイロ体系

例えば1haの収穫をする場合…

6人で
約15時間(1ha)
延べ90時間

細断型ロールベーラで 大幅な省力化!



細断型ロールベール
サイレージ体系

同様に1haの
収穫をする場合…

世界初の独自技術

85%
削減

2人で
6.96時間(1ha)
延べ約14時間



高品質サイレージ

サイレージ物流化

細断型ホールクロップ収穫機

- ・水田の有効活用、耕畜連携の推進

○ 稲WCSの作付面積(ha)

R元	R2	R3	R4	R5	R6
42,453	42,791	44,248	48,404	53,055	56,479

資料:農林水産省「新規需要米の都道府県別の取組計画認定状況」

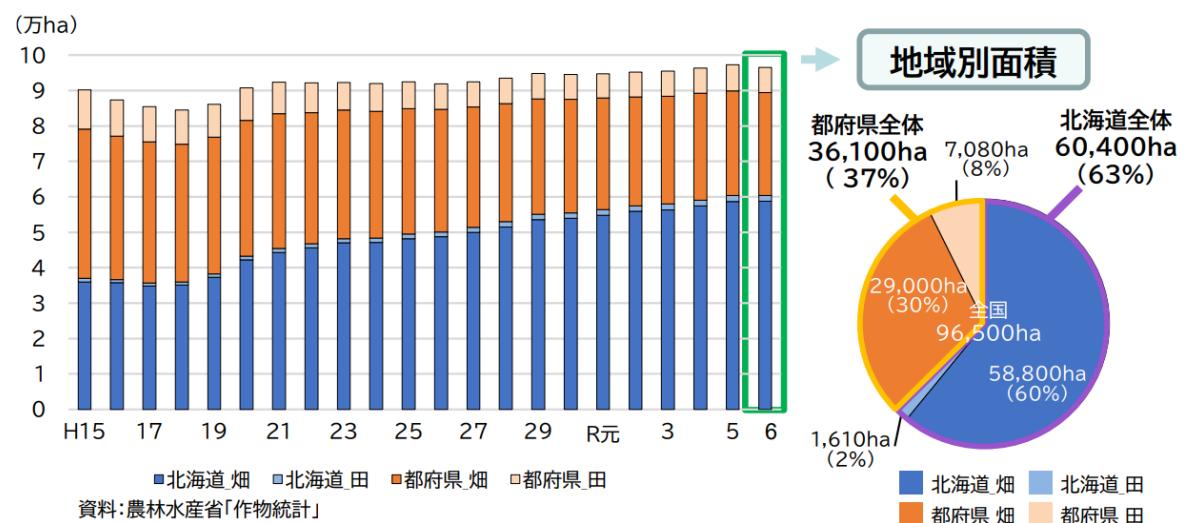
稻発酵粗飼料(WCS)は、水田で生産できる良質な粗飼料として、耕種農家・畜産農家の双方にメリット。



汎用型微細断飼料収穫機



○ 青刈りとうもろこしの栽培面積の現状



持続可能な農業生産のためにも、国産飼料の生産・利用の拡大を進めることが重要

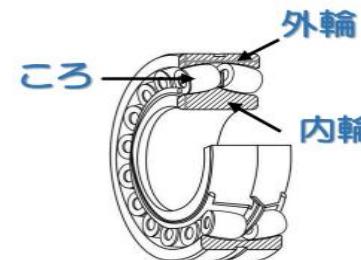
軸受事業

光洋精工(現ジェイテクト)との業務提携で1970年にスタート

業務内容

- ・200mmから1,200mmの大型ベアリングの部品加工
- ・大型ベアリングの内輪・外輪の旋削加工、ころの旋削加工、ころの研磨加工

ベアリングの構造



使用用途

製鋼所関係、建設機械、新幹線を含む鉄道用、その他産業用機械等



軸受以外の加工領域への拡大にも取り組む

株主の皆様の期待に応える利益還元を目指す

経営基盤の強化による
株主資本の充実継続的、安定的に
適正レベルの配当

■株主優待制度

基準日	保有株数	優待内容	贈呈時期
9月末日	100株以上1,000株未満	クオカード: 500円分	12月
	1,000株以上	クオカード: 1,000円分	

